

ISSN 2435-2268

令和2年度

宮崎文化振興協会研究報告書

公益財団法人 宮崎文化振興協会

ごあいさつ

本研究は、「学術及び科学技術、文化及び芸術の振興を図り、豊かな人間性と創造性を備えた人材の育成と文化の香り豊かなまちづくりに寄与すること」を目的に、平成24年度「公益財団法人宮崎文化振興協会研究事業」としてスタートし9年目を迎え、これまでに100を超える論文を送り出してきました。県内の主要施設に加え、一昨年より国立国会図書館にも収蔵されております。

特に本年度は人類史上まれに見るウイルスとの戦いであり、これまでに経験のない数多くの感染予防対策業務に力を注いでまいりました。そんな中5つの研究部門（経営・歴史文化・自然科学・施設管理・催事等実施報告）のうち3部門に於いて8つの研究を行い、この報告書にまとめることができました。

これらの研究テーマは、いずれも日ごろの業務において見出した課題や問題点について、その対応策や改善策を検討したものです。通常の指定管理業務を離れ、宮崎文化振興協会の職員として、教育・文化振興に軸足を置きながら、新たな工夫・改善を念頭に、これからの新たな切り口としての提案、さらには発見など、広くご紹介したい内容であります。

世の中は、ポストコロナの新しい社会構造への転換に向け、科学技術イノベーションの重要性が増しています。国においてもSociety 5.0の実現に向けての取組や「新しい科学技術・イノベーション基本計画」の策定も進められていきます。

このようなかねりの中でそれを担うのは、やはり「人のちから」であります。当協会にあっても一人一人の改革・改善に取り組む意識・意欲、行動力、さらには相互の協力体制も必要不可欠です。そして、これらの事が閉塞感に包まれた不自由な時にこそ、最も重要であり組織を支える「ちから」であることをあらためて感じています。

そのような意味も込めて、この研究事業に取り組んでおりますが、日常業務に加え様々な業務が付加された中で、研究に取り組んだ職員のさらなる精進のためにも本報告書をご一読いただき、研究事業に対するご意見をいただければ幸いです。

令和3年3月吉日

公益財団法人 宮崎文化振興協会
理事長 小 泉 英 一

目次

1. 研究論文

経営部門

《協会事務局》

宮崎科学技術館におけるSDGsへの取組の充実
～主催事業及び展示物のSDGsへの関連付けを通して～ . . . 1

宮崎科学技術館の展示物の効果的な学習利用について . . . 7

《大淀川学習館》

宮崎文化振興協会における庶務の効率化に関する研究
～庶務担当業務の課題抽出及び分類を通して～ . . . 13

自然科学部門

《大淀川学習館》

大淀川学習館「水辺の楽校」周辺における生息調査及び水質調査について
～調査結果に基づいた大淀川の実態に関する情報発信への活用～ . . . 19

観察しやすい自然楽習園を目指して～植栽管理からのアプローチ～ . . . 27

施設管理部門

《宮崎科学技術館》

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う宮崎科学技術館の対応と今後の感染症対策について . . . 33

市民と一緒に作るロケットロードマップの具現化とロケット関連展示の充実化に向けて . . . 39

《大淀川学習館》

大淀川学習館におけるミュージアムショップ開設の可能性を探る
— 指向調査や他館への聴取を通して — . . . 44

2. 審査会講評 . . . 50

3. 先行研究一覧 . . . 56

4. 参考 . . . 71

公益財団法人宮崎文化振興協会研究事業実施要綱

1. 研究論文

